

● 次世代につなぐ、農業への夢と希望

明日を語ろう!
北の農業人
KITANO NOUGYOUHITO



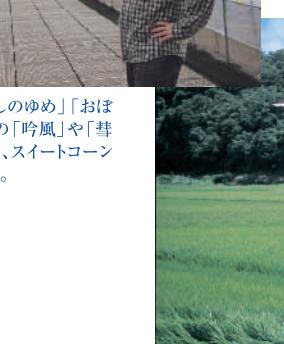
子どもたちが「農業つてカッコイイ」と思ってくれたらうれしい。産業用無人ヘリコプターが、農業の新しい可能性を広げてくれた。



【栗山町】
国岡正好さん(水稻栽培)



●国岡農場では「はしのゆめ」「おぼろづき」のほか、酒米の「吟風」や「彗星」、小麦、パレイショ、スイートコーンなどを栽培しています。



明日を語ろう!
北の農業人
KITANO NOUGYOUHITO

明日を語ろう!
北の農業人
KITANO NOUGYOUHITO

●17年前の導入当初は苦労もあった、と笑いながら話す国岡さん。「当時の機種はすべてマニュアル操作。思い通りに飛ばすのが難しく、一年目は北日本スカイテックの方に付ききで指導してもらいました。続けてごられたのはインストラクターさんのおかげです」

「労働力をカバーするために、2軒共同で防除作業をしていました。でも、水田一枚あたりの規模が大きくなると、散布用ホースを引きながら撒く作業が重労働になってしまった。水稲栽培に取り組みたと考えています。」

防除作業の効率化と省力化に取り組む

「最初は、『うまくいくの?』と半信半疑の人が多くいたと思います。でも、若い者のやることを見守ってやる、というムードがありましたね。ヘリコプターを飛ばしていると、よくみんなが集まってきて、関心の高さをひしひしと感じました」

「それまでは、地域で連携して水稻の共同防除を行っていましたが、手作業だと20ヘクタールを終えるのに2日間必要でした。それが無人ヘリコプターに切り替えたところ同じ2日間で120ヘクタール分をこな

子どもが夢と希望を持てる農業

「防除は時間と手間がかかる、という常識を覆しました。現在では、離立地区と日出地区の一部を合わせて、12戸分の防除を請け負っています」

せるようにならうです。

国岡さんが最初に無人ヘリコプターを導入してから17年。今では栗山町内だけで5機、オペレーターも40人ほどに増えました。

国岡さんは無人ヘリコプターによって農業の新しい可能性が広がったと言います。「地域二部の防除を一齊に行うこと、農薬の使用量が減りました。また、農薬の飛散を防ぐこともあります。去年から残留農薬のポジティブリスト制が導入されたことで消費者意識も高まっています。安全安心な食物を、という現代「一ズ」にも対応できる、先進的な取り組みでした」

国岡さんは、もうひとつ願いがあります。それは次代の農業を担う子どもたちに、夢や希望を与えることです。農業は地味でつらい仕事というイメージを変えたかったのか、今年の春、息子さんもオペレーターの資格を取得。地域農業を支える新しい芽は、確実に育っています。

「高齢化や担い手不足、農業が抱える問題はいろいろあるけれど、何より、子どもたちが『農業つてカッコイイ!』と思ってくれたから本望ですね」



●「食べた人が『おいしい』って言ってくれるのが、何よりうれしいよね」と国岡さん。直売所の設置や収穫体験など、農業の新しい魅力づくりにも取り組んでいます。